

Case 28-2006: A 59-Year-Old Man with Masses in Both Kidneys
(New England Journal of Medicine 2006; 355: 1161-7)

【Problem list】

#1 両腎腫瘍

身体診察で偶発的に発見された右上腹部膨隆の精査により発見。腹部エコーにて右腎上極に ϕ 4.4 cm、左腎上極に ϕ 3.1 cm。腹部 CT にて両腎に 3x4 cm。自覚症状なし。

#1-1 下大静脈閉塞

右腎の腫瘍が下大静脈内腔にまで浸潤し、エコー上 2x5 cm の腫瘍として観察される。内腔のほとんどを占めている。ただし、flow は残存している。

#2 高血圧

外来診察時 210/80 mm Hg の高血圧。エナラプリル (ACEI)、ベラパミル (Ca 拮抗薬)、フロセミド (ループ利尿薬)、アロプリノール (尿酸産生阻害薬) にて治療中。経過については記載なし。

※本文中明示されていないが、アロプリノールの服用から高尿酸血症の存在が示唆される。

#3 肥満・糖尿病

グリブライド (スルフォニル尿素系糖尿病薬) にて治療中。経過、現在の血糖値、合併症の評価については記載なし。

#4 腎臓結石の既往

詳細不明。最近の血尿や尿路症状、側腹部痛を認めない。

【冠動脈疾患の危険因子】

高血圧 (、高尿酸血症)、肥満・糖尿病、男性、冠動脈疾患の家族歴